

家康 最大の危機「三河一向一揆」をいかに切り抜けたか!!

家康の三大危機と言われる「三河一向一揆」「三方ヶ原の戦い」「本能寺の変後の伊賀越え」のうち、家康 22歳の若い時の危機が「三河一向一揆」。しかも、これまでの家来たちと戦うことになった。その時家康は「どうした!!」 以下は4人の主な意見を私流に整理しました、それに一部は調べたことを付け加えたものです。

三河一向一揆前後の出来事

- 1548 小豆坂の戦い …… 1542 と二度にわたり今川・松平連合と織田の戦い。松平清康死後の覇権を争って織田信秀と今川義元の抗争
- 1558 信元と松平元康石ヶ瀬で戦う
- 1560 5月 桶狭間の戦い 元康は信元の計らいで大高城から岡崎へ脱出
6月 信元と松平元康石ヶ瀬で戦う
- 1561 2月 信元と松平元康石ヶ瀬で戦う …… これまで今川からの応援は何もなかった
- 1562 正月、信元の仲裁により織田信長と松平元康は清洲同盟を結び和睦
- 1563 三河一向一揆 苦戦すると信元・忠重が参戦して制圧。元康は家康と改名
- 1564 5月家康は一向宗方に改宗を命じた。これにより寺院などは破壊して坊主を追放した
- 1566 松平家康は徳川家康と改名
- 1570 家康岡崎から浜松に移る

元康は桶狭間の戦いを機に岡崎に戻る

元康は桶狭間の戦いにおいて、大高城への兵糧を運び入れるのに成功する。が、主の義元が打ち取られてしまう。水野信元の助言ですぐさま岡崎の大樹寺へ戻る。が、いずれ織田の大軍に滅ぼされると考え自害をしようとする。しかし、お寺の登誓上人に「厭離穢土 欣求浄土(争いのない平和な世の中を創りなさい)」と諭される。その後、家康は厭離穢土欣求浄土のノボリ旗を掲げて戦ったという。

今川は織田方への備えとして、元康に岡崎を任せる。しかし、今川からは何も応援はなかった。

1562年織田と同盟を結ぶ、何故織田を選んだのか?

これまでの今川から織田を選んだ理由(松平記)は……三河は30万石ほど、東の浜松も30万石、駿河は15万石しかない。それに引き換え西の織田は60万石から100万石にもなる。だから西へ向かって攻めるのは大変で、東へ向かう方が容易であると考えておかしくない。

三河一向一揆は何故起きたのか

お寺は松平広忠の時代に「不入権(免税・警察権が及ばない)」が認められていた。しかし、元康はこれを反故にして、これから東の今川に備えるためにも軍備の増強が必要だった。そこで、お寺から兵糧とす

る穀物を徴収した。このことが引き金となり一揆が起こった。

三河一向一揆の発端説

- ① 1562 年本證寺に侵入した無法者を西尾城主酒井正親が捕縛したため、守護不入の特権を侵害されたとして 1563 年正月に一揆が起こったという説。
- ② 1563 年松平氏家臣の菅沼定顕に命じて上宮寺付近に砦を築かせ、上宮寺から兵糧とする穀物を奪ったことに端を発したという説。

一揆側と家康側のメンバー (後に徳川 16 神将に名を連ねる忠臣も一向一揆方に味方した)

	一向一揆側	家康側
お寺	三河三ヶ寺(本證寺、上宮寺、勝鬘寺)、本宗寺	真宗高田派…満性寺、妙源寺、浄珠寺
武将	吉良義昭、松平家次、本多正信、石川康正 本多正重、渡辺守綱、酒井忠尚、鳥居忠広 加藤教明、夏目吉信、蜂屋定次、内藤清長	松平家康、水野信元、水野忠重 石川数正、本多忠勝、天野康景 柴田康忠

★一向一揆方 3 段目の 4 人と渡辺守綱は 16 神将

一揆側の要求

一揆側の条件は「元々の権利を認めよ」ということだけであった。

元康はこれを踏みつぶそうとしたが、お寺側は連携して大きな力を持つことになる。その結果、国中の半分以上が一揆側の門徒になっていた。

一揆側の強み

本證寺は境内が内堀に囲まれており、外堀も残っています。さながらお城のような造りで城郭伽藍と呼ばれるものです。外堀に囲まれたエリアは寺内町として、すべての職業(武器、家、食料…etc)がそろっていた。そんなお寺が 4 箇所もあったわけで、お城側より経済力があつたと考えられる。

戦いのポイント

家康 16 将と言われた槍の半蔵こと渡辺守綱、蜂屋定次など有力な家来の多くが一揆側に就くなど一族の間で門徒方と家康方に分裂し、混乱を極めた。

一揆方が攻め込んで(上和田城)家康に鉄砲が 2 発当たるも大事に至らなかった。それよりも家康を目の前にすると逃げ出す者もいたという。主君に刃を向けることがとがめられたのだが、「主君の恩は現世のみ、阿弥陀如来の恩は来世まで」と多くの人は考えた。

※今回の話や調べたことの中では、水野信元・忠重の応援を得て勝利に繋がったことは出てこない。しかし、水野氏講座の高木先生は家康から信元への応援要請をした、古文書があると話している。

一揆の終息

TV では一揆方が和議の申し入れをした流れであった。が、他では 1564 年 1 月 15 日の馬頭原合戦の勝利で、家康は優位に立ち和議に持ち込み一揆の解体に成功したとある。

和議の仲介にも関わった水野信元の書状に、この春には和議が整い国内が平穏になったことが記されている。

一揆終息の処置とその後 どうする家康!!

和議を受け入れる場合、受け入れない場合、さらに一揆方の処置をどうするか!!

一揆方をゆるす考え

- ・三河でいつまでも争っていると、今川、武田が攻めてくれば一大事…
- ・信仰の力は強い
- ・処分すれば経済力を失ってしまう……内堀は残しても外堀は埋める

一揆方を許さない考え

- ・将来にわたり不入権を巡り争いは起こる

忘れて許して取り込む!! …… 家康のとった行動

和議の申し入れは「前々の約束を守ってくれ」つまり、殺さない・不入は認めることであった。これに対して家康はこれを受け入れるが、「前々と言うなら、その前々つまり昔は野原であった」と主張。本願寺の寺院に他派・他宗への改修を迫り、これを拒んだ場合は破壊し、坊主を追放した。勝鬘寺は信濃井上、上宮寺の親子は尾張菟安賀に退去した。以後 20 年間三河では一向宗は禁止された。その後、三河で一向宗が赦免されるのは 1583(天正 11)で、其れには家康の伯母にあたる妙春尼の熱心な働きかけがあった。しかし、一向一揆の中心となった上宮寺・勝鬘寺など 7ヶ寺は認められず、それが許されたのは 1585 年になってからである。

家康は一揆方のお寺には厳格な処分を下す一方、離反した家臣には寛大な処置で臨むことで家中の結束を高めることに成功した。(ただ一部の家臣は出奔した…吉良義昭は上方へ、酒井忠尚は駿河へ、荒川義広は三河を離れた)

この家康の判断は

・理を通す筋を通すより、自分の都合の良いように決める……ことであり、政治家は恨みを忘れることが出来ないのだ。

※三河一向一揆は大阪本願寺から指示が来ていない(資料が残っていない)。

また、武田が攻め込んだ時に大阪本願寺が一揆を指示しているが、三河で一揆は起こらなかった。

《参考》

① 家康の略歴

1542 年	岡崎城にて誕生	22 歳	三河一向一揆	49 歳	関東移封
6 歳	織田の人質	31 歳	三方ヶ原の戦い	59 歳	関ヶ原の戦い
8 歳	今川の人質	34 歳	長篠の戦い	62 歳	征夷大將軍・江戸幕府
14 歳	初陣(寺部城の戦い)	41 歳	伊賀越え	74 歳	大阪夏の陣
19 歳	桶狭間の戦い	43 歳	小牧長久手の戦い	75 歳	1616 年死去

② 家康の戦ベスト 10(英雄たちの選択の中の投票)

- ① 三方ヶ原の戦い
- ② 桶狭間の戦い
- ③ 関ヶ原の戦い
- ④ 小牧・長久手の戦い
- ⑤ 本能寺の変 ……………家康は知恩院で自害する、と言った。が信長の家来がそばにいたので芝居
- ⑥ 三河一向一揆
- ⑦ 信康事件
- ⑧ 長篠の戦い
- ⑨ 大坂の陣
- ⑩ ???

③ 家康の人なりとは…

- ・読書力がすごい人だった
- ・信長・秀吉は「夢を見る世界観」、それに対して家康は「家を守り続けなくてはいけない」。待つことができる人だった。
- ・信長・秀吉の戦い方や街づくりを観てきた。彼らが築いてきたものを進化させたのが家康
- ・政治は意志の強要! → 共にウインウインでなくてはいけない → 落としどころを探す …… この考え方を貫き通した人